

令和8年度第1回三重県社会教育委員の会議概要

1 開催日時 令和8年7月8日（水） 9時30分～11時30分

2 会 場 三重県合同ビル G101 会議室

3 出席者

(1) 三重県社会教育委員（7名）

池山 敦（座長）、奥村 隆志、鈴木 智恵子、堺 知美、畑 和伸、志治 優美、
園部 友里恵

(2) 三重県教育委員会事務局（5名）

育成支援・社会教育担当次長 荒川 健
社会教育・文化財保護課長 田米 正宏
同 課長補佐兼班長 酒井 紀夫
同 主幹 岡部 千歳
同 主任兼社会教育主事 森 陽祐

4 傍聴者 0名 （公開で実施）

5 内 容

(1) 確認事項

- ・ 令和6・7年度審議のまとめ
- ・ 令和8・9年度のテーマ

(2) 審議事項

- ・ 令和8年度社会教育関係者ネットワーク実践交流会・基礎研修会について

(3) 報告事項

- ・ 令和8年度の社会教育関係の取組内容
- ・ 社会教育推進体制整備事業
- ・ 学びを通じた地域課題解決推進事業
- ・ 三重県社会教育委員連絡協議会

(4) その他

6 概 要

(1) 確認事項

事務局から令和6・7年度審議のまとめについて説明しました。また、令和8・9年度のテーマについて確認しました。

- ・ 決して社会教育の認知度は高くない現状。活動する側も「社会教育」として意識をして活動していかなければ認知度は上がらない。（畑委員）
- ・ 自分も日々、地域学校協働活動を推進する活動をしているが地域学校協働活動コーディネーターとして活動している認識であり、「社会教育」として活動している認識が薄かった。（鈴木委員）
- ・ 誰に対しての認知度なのか、という主体をはっきりさせて取り組まなければならない。（園部委員）
- ・ 広いテーマなので、実際の取組の際には事業ごとにもう少し狙いを絞ったテーマを掲げていく必要がある。（池山委員）

(2) 審議事項

事務局から令和8年度社会教育関係者ネットワーク実践研究交流会及び基礎研修会の見通しについて説明し意見を伺いました。

- ・ 「社会教育」という言葉そのものの認知を広げたい。社会教育として活動している人と教職員を繋げたい。（奥村委員）
- ・ 行政職員だけでなく一般の方が地域でされている取組をクローズアップして、広く知ってもらうことが大切。また、社会教育委員には役割を自覚してもらうきっかけとして実際に動いてもらうミッションのような取組があると良い。（畑委員）
- ・ 今各自がやっている取組が社会教育であるということを知ってもらう取組を目指すべきなのか。それとも外部の人に社会教育のことを知ってもらうことを目指すべきなのか。（鈴木委員）
- ・ 社会教育というのはすごく広い範囲のもので、本人も知らずに社会教育をしている人もたくさんいる。社会教育に携わる人が自認する「中の認識」と周りの一般の人に社会教育を認知してもらう「外の認識」のどちらに、あるいは両方に作用していける取組が必要。（志治委員、池山委員）
- ・ 何のために社会教育をするのかという認識も大切。周りをより良くしていくためにやっているという意識。（堺委員）
- ・ 社会教育主事講習を実施していてもその有資格者が資質を発揮できない現場に配置される実態もある。行政側にも認識を高めてもらう機会には有意義である。（園部）
- ・ 研修会の対象者を市民や活動家にまで広げて、街づくりに関することなど日々の取組を「これは社会教育なんだ」と気付けるような機会にすると良い。（池山）

(3) 報告事項

事務局から報告事項をそれぞれ報告しました。

7. 次回開催

日時：令和8年10月～11月頃

場所：未定